

持続可能な容器づくりを目指して

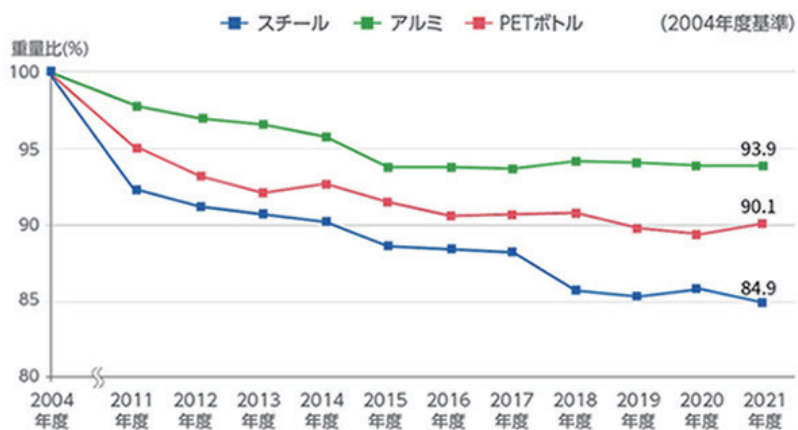


容器の軽量化（リデュース）



東洋製罐の事業グループ各社では、材料使用量を削減するため、容器の軽量化に取り組んできました。容器を軽量化すれば、金属缶の材料である鉄やアルミ、PETボトルの材料である石油など枯渇資源の使用量を減らすことができます。例えば飲料容器の重量は2004年度と比較して軽量化が進んでおり、容器の機能を損なわないギリギリのレベルまで来ていますが、Eco Action Plan 2030ではさらなる軽量化を目標とし、引き続き限りある資源を有効に利用できるよう努力を続けています。

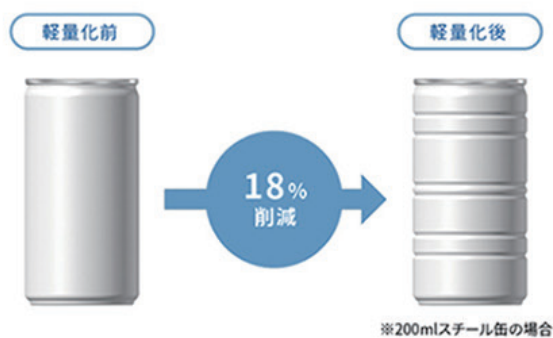
飲料用容器の重量変化



飲料缶の軽量化

スチール缶、アルミ缶は、より薄い銅板やアルミ板を使用することで軽量化を進めています。スチール缶は15%減、アルミ缶は6%減までリデュースが進んでいます。

スチール缶 軽量化事例



ビード(胴体を1周する細い溝)を入れることによって、缶の強度を向上し、スチール材料を削減(Reduce)できます。

PETボトルの軽量化

PETボトルは、デザイン形状や成形条件などの工夫により、樹脂の使用量を減らすことで10%軽量化しています。



社会的課題の解決に向けて

あき缶の散乱が社会問題となった1970年代、東洋製罐は業界団体と協力して散乱防止やポイ捨て防止の美化活動などの取り組みを開始しました。2000年には容器包装リサイクル法が完全施行され、各容器団体を通じて、分別排出への理解と協力を呼びかけてきました。

そして現在、世界中の海や川において、資源回収されずに流出したプラスチックごみが海洋汚染を引き起こし、海洋生物の生命を脅かす一因となっています。

東洋製罐事業グループとして、容器の軽量化やごみの散乱防止の取り組みだけでなく、現在一部のプラスチック製品に使用されている再生材・植物由来樹脂の利用率を徐々に増やしていきます。簡単に解決できる問題ではありませんが、さまざまなアプローチで「つくる責任」を果たしていきます。

